

刊夕 日二月二



定価 一部金五銭 一月金五拾銭 郵費五銭
廣告料 五銭 電話 行金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常新日新聞社
編集所 常新日新聞社
印刷所 常新日新聞社
電話 六三〇
印刷 常新日新聞社



不惑の氣力

舊暮の日の感想
N I M 生

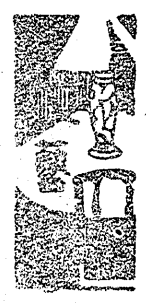
節分も間近だ、去年あたりから即ち何時か四十の聲を聞く様になつてから、今迄過信して来た自分の能力が夢想だになつた程も低い者であり然も之から伸る時が目のあたりに見え出して来た様に思はれる。本當に社會の流に掉し得るのはもうあと十年に過ぎずそれからはたゞ今迄の情力で動くに過ぎない。この様に考へて來ると過去の激測とした十年前人未踏の世界に一歩も踏み込めなかつた自分が之からの自信を失つ

ノット

鏡餅は神鏡に象つたものだから切るとははずし開くといふ即ち鏡開き
た十年中には更らに絶望に思へる。私のこの間に恩師はかゝる自己回顧は眞の進歩の過程であると勵ましてくれ、漢詩をよくし書家である舊師は遜と誤解して「尙斐」等いふ文字を揮毫し下さつた。錦上裝を加ふ所

ではないのである。實業家であるKは眞理の探究より卑近なる發明により、人生を樂しむべき事をすゝめ同僚Tは過去の私の考に同じ現在の私の言を眞實として受け入れ様ともしない。同じ道を歩むものは同じ心境をたどるものなのかもしれない。
とは言へ今の地位をすてたとて、自分にはMの様に
○明日の献立
○味噌汁豆腐 小付
○牛肉の佃煮
○「畫」さんびら牛蒡
○「晚」フコーハイ干炒肉片(カンザニベン)

會社の重役等いふ地位がまつて居てくれる譯でもなく老父母と子供と妻との明日の飯も考へねばならない。せめて今見る時のかげにより高い時があるかもしれないと言ふ萬一の場合を夢見て、更らに新らしい一つのテーマの研究に入らうと思つて居る。十年の後にこのはかない夢が破れたとしても今程の悲惨な思はずもなく時はずむだらうと思ふ。その時はもう體もつかれて居り氣力も弱つて居るであらうから。或はまた二十數年のネガチーフの生活はポヂチーフ等いふ慣れない業績を



春

平田靖一

ほがらがな詩と歌
それだけで春なのに
プロを誇り、悲しみのみを訴へるのは
あまりにも自分の悲しい性ではあるまいか
ひろく人を物を受するにはそれを遠くからながめ、ひはんし
いかり、と、にくしみをなくするためには
相手を哀れむか、悔るよりすべがない
生きてゐる事だつてさほど嬉しくなく
死ぬ事だつて障字を破る位のもの
生、死、どれも好い人生である
人生なんて、吸ふた煙草のすひからを
道端に棄てる位のもの

それが来る春も来る春ものがんじだつた
が三五年の春には新しい角度から
自分は新しい春を認める事にしよう

外科

門 專 光 X
科 線
上田外科醫院
平町南町
電話一九二番

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い湯や火でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレンにならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキリに治ります。

太乙膏

キリ印
ヤケド キリキズ
クサ はだのアレ
ヒブクレン あかざれ
シモヤケ たざれ
平町古鍛冶町一〇
電話四四番

阿康薬舗

- 一、齒科一般 保存科補綴科 繼續架工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
- 一、口腔外科 一、レントゲン科

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠
平町田町(松月堂向ヒ)
電話五〇九番

長唄御稽古案内

三味線お唄共に晝夜御隨意
出稽古も致します
平町一丁目南川岸
(渡邊銃砲店裏)
長唄師匠 杵屋六美

火鉢附焼炭特賣延期

賣行良好ノタメ御禮トシテ
二月六日迄(舊正月三日)延期致シマス
福島縣、宮城縣、岩手縣、茨城縣一部
代理店 酒井伴城商店
驛前 電六六一番

- 濱三郡特約店
- 三丁目 磐崎屋酒店 電六六三番
 - 四倉町 昭和産業合資會社 電話十八番
 - 地方販賣店
 - 四丁目 菅野屋肥料店
 - 同 渡部米店
 - 小名濱 磐崎屋本店
 - 湯本 草野雜貨店

舊二日市景品に就て

一、現金にて御買上の方に景品を呈します
一、現金にて商品券御買上の方にも同様景品を呈します
但し商品券にて品物御買上の場合は景品を差上げません、二日市の景品は右の通り御實行せられんことを希望します

平町各商店

平商工會
御中

破魔弓と羽子板を

陳列致しました
御子様の御祝に是非!

スガノヤ提灯店

平。四
電九五

三中等學校共に 平易な問題を選ぶ

日頃の成績に重点を置き 受験勉強などは必要ない

受験児童が胸躍らして待つ
磐中、平商、磐女の各中等
學校の入學考査は三月二十
七日より三日間一齊に執行
されるが募集人員は磐中二
百五十名、平商百十名、磐
女二百五十名(豫定)で試験
問題は各校共以前よりも一
層小學校側からの成績申告

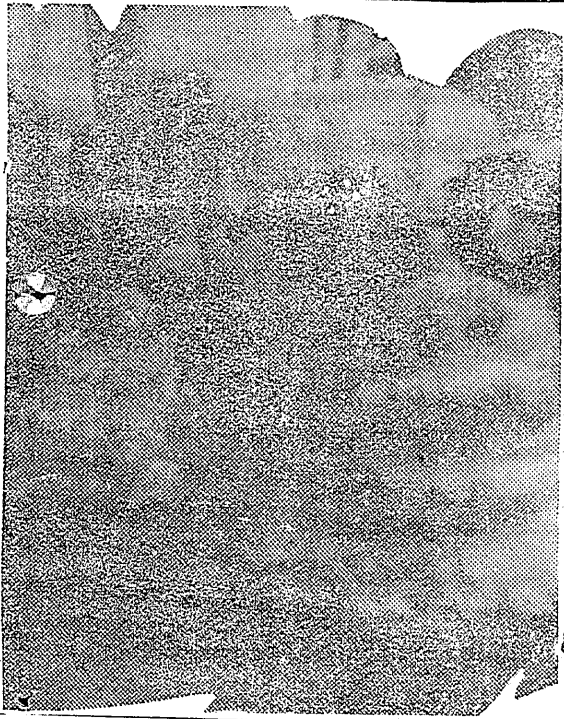
に重きを置き特殊の準備教
育などを行はなくても六ヶ年
の義務教育を一應理解して
置けば誰にでも答へられる
やうな平易な問題を選ぶ方
針である由因に成績發表は
磐中三十一日、平商二十九
日、磐女三十一日であると

興味ある問題

女子の選手 結婚後の影響

体育指導上の参考 ▽... 警女校が調査

女子の運動選手が卒業後身
体にどんな變化や影響を齎
らすかは興味ある問題とな
る。最も此の点に關し常に深い
出現せり雪だるま



運動實施の状況、健否の
状況、疾病の状況、職業
の状況、結婚の状況、經
産の状況

等を個別的に調査せしめこ
れによつて選手選手の結婚
生活に及ぼす影響を判別す
る事となつた

小名濱に 巡查増派

既報小名濱警署派出所は此
程モダンな二階建舎が竣工
したが同町は現在人口一萬
二千を超へ益々發展の途上
にありこの治安維持に當る
警察官が警部補以下巡查二
名では萬全を期し難いので
横山平署長は來年度から巡
査増員の實施方を縣に申請
すると

江名水道 愈よ着工

既報江名町の上水道敷設問
題は昨年より叫ばれて居た
が愈々本年に於いて工費
十二萬圓を以つて着工する

事に決したが水源は天然水
の湧出する仲ノ作字谷合地
内では是れを淨水池に移し瀧
過して仲ノ作、江名区内に
給水する計畫、明年度完成
の豫定であると

第三部團長會

本部
第三部青年團は來る十三
日午前十時から平第一小學
校に團長會を開き總會開催
日取決定の件其他を種々協

土木事業界の雄

江口忠一氏逝く

平町搔樋小路堀江工業株式
會社長江口忠一氏は去る卅
一日大石本縣土木課長一行
と共に郡内土木事業を視察
し歸宅後突然卒倒石山、難
波兩博士の手當を受け更に
東北帝大熊谷博士の診察を
乞ふたが昏睡状態より醒め
ず本日午前八時五十分遂に
逝去した。享年五十五、葬
儀は十九日午後二時性源寺
に於いて執行される

立志傳の人

波瀾の一生

別稿今朝急死せる東北土木
事業界の雄江口忠一氏は明
治十四年佐賀縣杵島郡福富
村に生れ、明治廿九年四月
佐世保海軍鎮守府船臺築造
工事を

明三日は

植田の大事

恒例舊大晦日明三日の植田
町大市は炭礦の好況と錦村
の人絹景氣とで一層の出入
を見るものと期待さる

土岐教諭待遇

磐女
教諭土岐昇氏は今回高等官
七等に待遇さる

捨石工事

の工費二十
六萬圓を初め現在までに二
百三十二ヶ所を請負ひその
總工費實に二百萬圓と號す
るまでの進展を遂げたが氏
はまた事業家として才腕を
持つ反面に社會公共への貢
獻多大であり豪放潔白な人
格者として周囲の信任篤く
今回の死が餘りに突然であ
るだけに人々の痛恨一方な
らざるものがある

小川農會總會

小川
村農會は來る五日午前十時
より同村小學校で總會を開
き豫算決算及び事業に就い
て協議する

拂下米の配給

鉢輪組合村は今回縣で申請

した凶作地として近く政府
の第二次拂下米六百二十

社告

舊正月に際し從業員
慰安の爲め來る四、
五兩日休刊致し候間
御諒承願上候
二月二日
常磐毎日新聞社

平町人墓

平町人墓
回死 亡
△鎌田町寺門正敏氏(二二)
△搔樋小足一 江口忠一氏
(五五)
△櫻町三一 渡邊茂氏(二
五)

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

父堀江工業株式會社取締役社長
江口忠一儀去月三十一日突然發病
し藥石其効無く今二日午前八時五十
分死去致し候間此段御通知申上候
追而明三日午後二時不取敢茶毘に附し來る十
九日午後二時平町字長橋町性源寺に於て佛式
に依り葬儀相嘗可申候
昭和十年二月二日

親戚總代 江口 軍二
堀江 定清
堀江 唯治
鈴木 治

株式賣買債權取立
會社 三一 共 商 事



明治太平記

(禁無断複製)
(上映及上演)

(作) 寺島征史
(畫) 野口漣

第四十五回

助太刀商賣 (三)

で、またぞろこの對策所を廢止し貢士を公務人としさらしに公議人と改め、その年の十二月四日に「公議所」と看板を塗り替へた。

ところが、その公議所法制案が出来上り、公議所設立の運びとなると、世間では大變な評判、なかでも横濱の新聞「もしは草」のごときは

「此度、東京に於て公議所お開きに相成り公議人二百七十人ほど出席ありたり。先達て御布告の趣にては以來庶民政府を助け、公明正大の政を施し行ふべきの權を許されたり。此ことは開化文明の一大改革といふべく、世界中これまで庶民に此の權のありしは獨りアメリカ合衆國のみにて、その餘の國にては決してなかりし事なり。この後公議所に赤心盡忠、國を愛ふる人々出席あつて、國事を評議し國中泰平の御世を祝し全國繁昌すること我輩の最ひ願ひ望むところなり(後略)」
とつて賞め立てた。
新しいことは、何でも採用しよう、それが文明化

だど心得た大官たちは、この公議所設立の好評から圖に乗つて、あくる三年三月十七日に待詔局といふものを開設した。

「諸藩から選ばれた公議人の言論府が出来たが、これだけで民間の輿論とはなら



ない。山開僻地草莽の臣が意見を吐露する機關がなければならぬ。江戸時代の政治は多數民論を壓迫したが、いやしくも明治新政府においては、田夫野人の意見とさへども用ふべきはこれを用ひねばならぬ」といふのが待詔局開設の

肚だつた。これは、はじめ二重橋内に設けられ、まもなく馬場先を入つて右側元松平下總守屋敷へ移つた。待詔局の主事は、元齋藤塾々頭神道無念流の達人大兵肥満の渡邊昇、副主事に照幡烈之助、その他參事、權參事の面々みな維新のどさくさのなかを往來した青年たちだ。手ぐすね引いていはゆる山開僻地の草莽の微臣たちの出頭を待ちうけたが、一向に議論にやつてくることがない。

「皇國基礎確定ノ會議、仰出ラレ候ニ付テハ國家ノ爲

存付コレ有リ候輩ハ卑賤ヲ顧ミズ待詔局へ罷出、忌憚ナク建言致スベキ事」といふ布告まで出して、水を向けたがそれでも出頭するものがない。七月になつてから、この待詔局を院として上下二局にわけてみる。だが庶民の

政治智識は、制度を設けたからとて急にひらけるものではない。そこで民論尊重の新政府では、またぞろ江戸時代の制度に逆轉して、目安箱を復活させて、民の聲を聞かうとした。これは待詔局よりはいくらか一般に近づき易かつたものとみえ、投書がポチポチ目安箱の中へ入れられた。

かういふ迂餘曲折をへて共議輿論を尊重し、民の聲を政治のうへに酌み入れようとした新政府は、七月十日、また「公議所」を集議院に改め、各府藩縣の正權大參事の中から議員を選んだ、どうにか輿論政治の眼鼻だけはつけた。

毎度有難うございます
エビフライ
ピフテキ
洋食
喫茶
會
コンパル
666-ELT
平原新道通り

市原醫院
平・田 町
電話一四番

新裝 爪をロツト正月奉仕
爪をロツト
上以圓三金本一
刻彫料無印認形○
半圓二・圓二金本一
料無入名御
迄日十リヨ日二舊 間 期
料無修理・證保年ケ五
店約特門專トツロイバ
店商木々佐忠角
番三三二話電角町屋平
番〇二二一臺仙替振

吉田眼科病院
平畑屋町電話六
醫學士 吉田久雄

かまぼこ製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

夜 間
胃腸科 専門
皮膚科
性病科
花柳病科
松村村松
院醫科性病腸胃
(番七〇一電町南町平)